

調 査 書 作 成 要 領

1 調査書作成に当たって

中学校長、義務教育学校長又は特別支援学校長は、調査書の作成に当たっては、調査書作成委員会（以下「委員会」という。）を設けて、厳正を期すること。委員会は、校長、副校長、教頭、中学部主事（特別支援学校）、教務主任、生徒指導主事及び進路指導主事その他の教員をもって構成し、校長を委員長として組織する。

2 調査書作成上の注意事項

- （１）調査書は、中学校、義務教育学校又は、特別支援学校中学部（以下「中学校」という。）生徒指導要録、健康診断票等の資料に基づいて作成する。
- （２）令和８年３月卒業見込者に関する第３学年（義務教育学校にあっては第９学年。以下同じ）の記録は、令和７年１２月末現在で記入すること。
- （３）鮮明に記入する。なお、必要に応じてゴム印、ワープロ等を用いてもよい。
- （４）記入する数字は、全て算用数字を用いる。

3 調査書記入上の注意事項

- （１）「受検番号」の欄は、受検先学校において記入するので、中学校では記入しない。
- （２）「１ 学籍の記録」の欄の記入について
 - ア 氏名の表記は、入学願書の文字と一致する。
 - イ ３年時在籍学級の欄は、中学校にあっては「通常の学級」又は「特別支援学級」の別を記し、「特別支援学級」の場合は（ ）内にその学級の種類（知的障がい等）を記入すること。特別支援学校にあっては、「通常」、「重複」の別を記入する。
 - ウ 生年月日が平成でない場合は２本線で修正する。
 - エ 卒業（見込）の欄は、平成又は令和及び卒業見込又は卒業について、該当事項を○印で囲み、生徒の卒業見込年月日又は卒業した年月日を記入する。
- （３）「２ 学習の記録」の欄の記入について
 - ア 第３学年の学習の状況のうち、特に成果のあったことについて記入する。
 - イ 領域・教科を合わせて指導している場合は、実施状況に合わせて教科等の欄を書き換える。
 - ウ 実施していない教科等については斜線を引く。
- （４）「自立活動」の欄の記入について
 - ア 学習の状況や成果について簡潔に記入する。
 - イ 実施していない場合については斜線を引く。
- （５）「３ 学校内外における諸活動の記録」の欄の記入について
 - ア 学校内外におけるスポーツ活動や文化活動への取組状況、主な大会の成績等について具体的に記入する。

イ 社会活動やボランティア活動の取組状況等について具体的に記入する。

ウ 記入内容がないときは、「特記事項なし」と記入する。

(6) 「4 指導上参考となる事項」の欄の記入について

ア 生徒の学校での学習や生活への取組状況で、他の欄に記入できなかった長所、特技等を記入する。

イ 生徒の将来の進路希望等について記入する。

ウ 出願先学校が特に求める記載事項があれば記入する。

エ 記入内容がないときは、「特記事項なし」と記入する。

(7) 「5 障がいの状況」の欄の記入について

ア 学校教育法施行令第22条の3に規定されている区分を記入すること。

イ 生徒の疾病等の診断名を記入すること（保護者が了解していること）。

ウ 療育手帳の所有状況（等級）を記入すること。